

令和5年 三河本苑秋季大祭・秋季合同慰霊祭 のご案内

大祭執行委員長 河合恭久

本苑信徒の皆様方におかれましては、日々のご神業並びに生業にお励みの事と存じます。令和5年三河本苑秋季大祭、秋季合同慰霊祭を下記の通り開催いたします。大祭を記念して、大本本部より前田茂太様をお迎えしてのご講話を予定しております。信徒の皆様方お誘い合わせの上、ご参拝頂きます様、ご案内申し上げます。

【日時】 **令和5年10月15日(日)**
午前10時より

【場所】 **大本三河本苑**

【講師】 東海教区特派
前田 茂太 様

【講題】 『**大本信徒の使命「型」**』

【諸行事】 ・冠沓句巻開き ・大祭添釜
・信徒作品展

①信徒作品展の作品の持ち込みは前日10月14日(土)までをお願いします。

②前日10月14日(土)午後1時より**全員参加の本苑清掃**を行います。

役員の方は午前10時より、よろしくご協力をお願いします。

三河本苑だより

10月号

2023・10 No.497

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL.0533-69-7518

FAX0533-69-1455

東海教区特任研修会に参加して

特任宣伝使 三矢 直

本部瑞生大祭後に、み手代下付百周年記念「全国宣伝使・信徒の集い」が開催され、多くの宣伝使・信徒の方々が参加されておりました。当日は全国で選ばれた講師の一人として、三河本苑特任宣伝使／松永孝司様が、み手代によるおかげ話を発表される予定でしたが、ご昇天されたため、開催に当たりご冥福を祈り1分間の黙とうで始まりました。

発表される予定であった原稿を、本部職員の司会者が紹介されました。発表された内容は後日、本苑だよりにも掲載される予定です。その翌日には本部にて、東海教区特任研修会が2日間に亘り開催され、前田東海教区特派宣伝使、三河本苑から本苑長、芝田特任と私が出席させて頂きました。他に名古屋分苑、静岡分苑、岐阜主会、三重主会、オリーブパーとして本部職員2名が加わり13名での研修会となりました。初めに前田特派による基調講話に始まり、名古屋分苑の進行のもと東海教区連携テーマで特任研修会実施要領等の説明があり、情報交換がされました。2日目は宣伝使養成の取り組み、葬祭お世話活動及び高齢者への大本葬祭の問題点などの発表があり、多くの意見交換がなされました。特に現状問題として、信徒数減少と後継者不足の課題については多くの意見が出され議論されました。

【聖師様の御歌】

いろいろの妨げなやみあればこそ
まことの天祐くだり来るなり
思わざること次々におこれども
善意にとれば力とぞなる

万祥殿献勞奉仕ご報告

誠心会長 三浦 浩

瑞生大祭を間近にして、7月30日(日)に三河誠心会は恒例の万祥殿献勞奉仕を行いました。参加者13名(名古屋分苑1名含)で、午前中はご神殿、大広間、ガラス拭きを清掃しました。午後からは縁側下と神殿前の清掃をしました。暑い中、皆様ご奉仕ありがとうございました。

次回皆様のご参加をお願いします。



十月添釜 祝秋季大祭奉納 大祭添釜

献茶席 午前九時
講師席 午前九時半
信徒席 祭典後

茶道部/直心会

10月の行事

●15日(日)

本苑秋季大祭
祖霊慰霊大祭
・記念講話

・大祭奉納添釜

・信徒作品展

・奉納冠沓句

●18日(水)

霊界物語全国

一斉拝読会

11月の行事

●19日(日)

本苑十一月次祭

・総代会

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」「マイタオル」持参でお願いします

私の思い 「私の趣味」

正徳分所 永田 修三

ばいスピード上げてやつの事で体は倒れましたが、技が掛

私にはありがたいことに趣味があります。無い人に比べたら、幸せだなと思う今日この頃です。

小学校四年生の時、兄の影響で合気道を始めました。家の都合で一旦はやめました。二十歳の時にまたやり始めました。その時の道場長は弟子の前で技を示して、後は細かい技術指導は無く、有段者の先輩と何度も繰り返して覚えていくという練習方法でした。

道場は個人経営で道場長の家でしたので、週に6日、夜の7時から9時まで練習が出来ました。そのおかげで三年位で念願の有段者となり袴をはいて練習が出来るようになり、毎日楽しく練習しました。

そんなある日、新しく入った高校生と練習することになりました。その方は細身でしたが体感がしっかりとしていたので、技が簡単にはかかりませんでした。力い

かった気がしません。それは結構長く続き楽しさはいつのまにか消えてしまい落胆しました。今までの自分は何をしてきたか、分からなくなり、合気道には筋がないと思いやめました。

それから数年たった頃、同じ道場で練習してきた方が新しく道場を開くので、また一緒にやらないかとお誘いがあったので、気持ちを新たに始めてみました。

しかし、内容は以前と変わりなく、力を入れられると技がかからなく、悩みの中で練習をしていました。そんな時、合気道開祖に二十三年間内弟子をされていた齋藤守弘先生を、うちの道場にお招きして指導を仰ぐことになりました。

齋藤先生はとても細かく、理解しやすく、今までの悩みは一瞬にしてなくなり、前のように楽しく合気道を練習ができるように

なりました。齋藤先生の技は「岩間スタイル」又は「武産合気道」と言われています。私は先生の技のみを愛し、研究し、その他の先生の技は全面拒否する様になりました。その考え方は、宣伝使になるまで変わりませんでした。好きな齋藤先生の技のみを練習し、その他の先生の技を嫌い、見ようともしませんでした。

宣伝使に拜命されてから、霊界物語を積極的に拝読するにつれて、その考え方は改めなくてはならぬと気づかしていただきました。今では、いろんな先生の技を見て、自分で研究して少しでも役立つように取り入れて練習しています。

合気道の開祖の言葉に「合気とは三千世界、一度に開く梅の花」というのがあります。この言葉は、今の私にはまだまだ理解できませんが、ご神書を積極的に拝読して理解できるように、初心者を含め、多くの方々と練習していきたいと思

本部講師葬祭 研修会

祭務部長 調子 慎一

8月26日・27日、本部講師/出口飛鳥様をお迎えして、葬祭研修会を本苑にて実施いたしました。二日間で総勢35名の参加がありました。ありがとうございました。

今回は、一日葬祭に重点を置き勉強させて頂きました。色々と為になった事と思います。葬儀をさせて頂くにも、真心を持ってお仕えることの大切さを感じました。



飛鳥先生の説明▶

斎主上衣着付け

遺稿「み手代お取次ぎ」と「祈願」の神徳

②「咽頭がんの叔父」 特任宣伝使 松永孝司

私の母の弟で叔父に当たる方が咽頭がんを患い、入院していました。咽頭がんのため、食べ物や水を喉から摂取することが困難な状態でした。医師の診断結果によれば、がんは全身に転移しているため、暫定的な処置として咽頭の切除が行われ、全身の転移に対しては抗がん剤治療が行われることになりました。

手術の直前から私は「お取次ぎ」をさせていたがくようになりました。祝詞の音が心に響くと喜んでいただきました。私は「お取次ぎ」を続けていましたが、仕事の都合で長期出張に行くことになりました。そのため、継続的な「お取次ぎ」ができなくなりましたが、叔父に了解を得て出張に出かけました。出張先から「遠隔お取次ぎ」をさせていただいておりましたが、ある日の午前4時ごろ、変な夢を見ました。夢の中で、やせ細った叔父が首から古い骨董品のようなカメラを下げて、痩せた馬にまたがり小高い山に登ってくる姿がありました。そして、馬から降りてカメラを取り外し、私に手渡す場面がありました。

その時、場面が変わり、多くの親族が台に並び、真ん中に叔父が座っている光景が広がりました。叔父は私に写真を撮ってくれと言ったのです。私は壊れたカメラのシャッターを押しました。すると、叔父はもう一枚撮ってくれと言ったので、もう一枚写真を撮りました。

また、場面が変わり、叔父は台から降りて下の方に歩き出しました。すると、小高い山の下から多くの人が登ってくる光景が広がりました。叔父はそれらの人々と手を握り、挨拶をしながら小高い山を降りていくのです。すると、叔父の姿がだんだんと元気な時の姿に戻っていききました。その長い列に驚きながら夢から覚めました。

叔父の安否が気にかかり、母に電話をかけたところ、叔父が早朝に亡くなったことがわかりました。しかし、なぜ写真を撮らせられたのか疑問に思い、出張から帰宅して叔父の家に参拝し、叔母にお尋ねすると、葬儀の際に使用する写真をどれにするかで親族間で揉めていたそうです。叔父はその対策として、私に写真を撮らせたのではないかと考えられました。

この体験は、現界と霊界の関係について、多くの教えが示される事例であると理解しています。